

STAGE+を楽しむ(77)(HP 収載)
—メストのプロコフィエフとブラームス—

1. 始めに

前報(76)に引き続き、STAGE+のメストのプロコフィエフとブラームスの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、メストのプロコフィエフとブラームスの演奏を選びました。

ライブ配信 2023年10月2日 4:00

ウェルザー=メストがプロコフィエフとブラームスを指揮

トリフォノフ&クリーブランド管弦楽団

1. 再配信 2023年10月2日 9:00

2. 再配信 2023年10月2日 20:00

クリーブランドのマンデル・コンサートホールから、ダニール・トリフォノフがフランツ・ウェルザー=メスト&クリーブランド管と共演する模様をお届けします。ブラームスの激しく情熱的なピアノ協奏曲第1番は、交響曲のようなスケール感で、ソリストの技術的な妙技、詩的な感性、そして体力が求められる一曲です。この協奏曲は、ブラームス自身が1859年に初演した、ブラームス最初のオーケストラ作品です。後半のプロコフィエフの交響曲第6番は、彼自身のもっとも個人的な楽曲と言っても過言ではないでしょう。第二次世界大戦の悲劇性を表した、非常に内面的な作品です。

ソリスト:

ダニール・トリフォノフ (ピアノ)

演奏:

クリーブランド管弦楽団

指揮:

フランツ・ウェルザー=メスト

曲目:

ヨハネス・ブラームス ピアノ協奏曲第1番ニ短調 op. 15

ダニール・トリフォノフ(ピアノ)

セルゲイ・プロコフィエフ 交響曲第6番変ホ短調 op. 111



3. 試聴の経過

2023年10月2日 9:00の再配信を試聴しましたが、瞬時の途切れもありましたが、概ね問題なく受信できました。

ブラームスのピアノ協奏曲第1番は、お馴染みの曲です。トリフォノフは、この曲のスケールの大きいロマンチズムを、卓越したテクニックによりダイナミックなピアニズムで、重厚なクリーヴランド管弦楽団のサポートとともに展開しています。

プロコフィエフの交響曲第6番は、戦争の悲劇性を表現した作品ということで、ドラマティックでもあり、悲劇を嘆くような表情が表現されています。クリーヴランド管弦楽団は、ジョージ・セル以来の歴史のあるオーケストラであり、指揮のメストもオーストリア出身であって、ヨーロッパのオーケストラのような重厚でオーソドックスな演奏です。





4. まとめ

以上の STAGE+配信は、追加の LAN iSilencer の効果も加わって、トリフォノフのブラームスのピアノ協奏曲第 1 番のスケールの大きなロマンチズムを引き出した演奏やクリーブランド管弦楽団のヨーロッパのオーケストラのような重厚な演奏を堪能できました。

以上